

令和7年度 学校経営方針

八王子市立横山中学校

校長 竹田 幸恵

1 学校教育目標 『自律 協同 勤勉』

- ・進んで学習し、よく考える人になろう（知育）
- ・礼儀正しく、思いやりのある人になろう（徳育）
- ・心身を鍛え、ねばり強い人になろう（体育）

→【今年度の重点目標】いのちと健康の大切さに気づき、考え、行動する生徒を育てる。

人間の多様性を尊重し、生徒一人ひとりが自分らしく生きるための教育活動の改善と充実に努める。

- ・広い視野をもち、社会に役立つ人になろう（社会貢献）

2 目指す学校像 『花信風 愛溢れる学校』

3年後の創立80周年を見据えて、花信風（かしんふう）とは、春や初夏の風が、木々の幹、葉、そして根にエネルギーを伝え、美しい花を咲かせるという言葉である。生徒たちもこの学び舎で風を吹かせてほしい。困っている友達に優しいさりげない風を、授業の中で積極的に質問し学ぶさわやかな風を、そして何事にもチャレンジする強い風を吹かせてほしい。生徒一人ひとり素敵な花を咲かせることを祈願する。

《生徒・保護者・地域の信託に応える～愛溢れる学校～》

キーワード『ウェルビーイングの向上』

- 【楽しい横山中学校】生徒にとって学校に行くことが楽しみになる学校
- 【信頼される横山中学校】保護者にとって子どもを通わせて本当によかったと思える学校
- 【生涯学習を担う横山中学校】郷土を愛し、伝統文化を継承し、地域にとって誇りとなる学校
- 【個性や創造力を伸ばす横山中学校】教職員にとって子どもたちの成長に誇りと働きがいを感じられる学校

3 基本方針

「八王子市教育委員会の主要施策」を踏まえ、本校教育目標の実現と、生徒・教師ともに学び合う学校づくりを目指す。『ウェルビーイングの向上』をキーワードに全教職員の力を結集し、**子どもたちが自律し生き生きと輝ける愛溢れる学校経営に努める。**

4 学校運営の重点

〈安全で安心な学校づくり〉

- （1）いじめを受けた等の訴えや不登校生徒へは、親切・丁寧・迅速に対応する。
- （2）生徒指導は学校組織全体で丁寧に取り組む。
- （3）特別な支援を要する生徒に関する情報を全教職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行う。
- （4）防災教育推進体制を整え、かけがえない自他の生命の尊重、健康・安全に対する意識や態度を養う。
- （5）教育活動全体をとおして正しい言葉・言葉遣いを意識し、人権に配慮した言語活動の充実を図る。

〈小中一貫教育〉

- （1）「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用し、小中で連携した学習や生活の振り返りを行う。
- （2）9年間で育てたい児童・生徒像を、「**自分の命、他人の命、地域の学び舎を大切に**する児童・生徒」
～あいさつがこだまする愛溢れる横山中校区～ とし、防災教育を主軸として、小中一貫教育のさらなる充実を図る。

〈学習指導〉

- （1）確かな学力の定着と向上を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力を育成する。

- (2) 個を尊重し、**全学年**習熟度別少人数指導(数学)、**少人数指導(英語)**、個別指導、放課後学習の時間を充実させる。
- (3) 授業目標を見える化し、「主体的・対話的で深い学び」と振り返りを取り入れた授業展開を工夫する。
- (4) **生徒が前のめりになる授業を展開し、生徒の主体性を育む授業実践と学びに向かう力を育む評価評定へ尽力するための研修を1年通して行う。**

〈道徳教育〉

- (1) **ペップトーク実践モデル校の実践を通して**、生徒一人ひとりに、地域社会の一員として優しい言葉で心穏やかな生活をしていく力を身に付けさせる。
- (2) **青少年赤十字加盟校の利点を生かし**、道徳授業地区公開講座等を充実させ、保護者・地域とともに生徒の規範意識の向上に努める。

〈総合的な学習の時間〉

- (1) 全教員で指導にあたり、地域等の教育力を生かしながら、指導方法の工夫・改善及び内容の充実に努める。
- (2) 「横山中学校2020レガシー」の取り組みとして、日本の伝統文化の良さを継承、発展させながら、郷土愛や異文化理解を推進する。

〈特別活動〉

- (1) 「**誇れる上級生、学ぶ下級生**」を生徒会活動の目標とし、自主・自立の精神を育てる。
- (2) 学校行事は、学校にかかわるすべての大人の協力を得て、生徒のための学校行事を創造する。

〈生活指導〉

- (1) 「あいさつをする」「人の話を聞く」「時間を守る」「責任をもつ」「言葉遣いを意識する」を基本におく。
- (2) 善悪の判断力、社会的な規律・規範意識を育て、いじめや非行、暴力行為等を絶対に許さない学校文化を創る。
- (3) **防災感覚を意識し、生徒がいのちと健康の大切さに気づき、考え、行動する安全指導を行う。**

〈進路指導〉

- (1) 生き方指導、キャリア教育としての進路指導を実践する。
- (2) 勤労の尊さを理解させるとともに、自己実現を目指す生徒を育む。
- (3) **生徒が自己をみつめ、グループや集団でのかかわりの中で物事をファシリテートする力を養う。**

〈特別支援教育〉

- (1) 特別支援コーディネーターを中心に、組織的支援体制を一層充実させる。不登校巡回教員
- (2) **特別支援教室に関する学校からの情報発信の創意工夫を図り、支援体制を保護者、地域へ継続的に伝える。**

5 個別方針

- (1) 生徒にとって
 - ① 人権尊重と自主・自律
 - ② 基礎基本の学力定着
 - ③ わかる授業と適正な評価
 - ④ 言語活動の充実
 - ⑤ 補習等個に応じた指導
 - ⑥ **特別支援教育の充実**
 - ⑦ **道徳教育、キャリア教育の充実**
- (2) 保護者・地域にとって
 - ① **いじめ、不登校への迅速丁寧な対応**
 - ② **防災、安全教育の充実**

③ ボランティア等地域貢献活動の推進

④ 家庭・地域との連携強化

⑤ 小中一貫教育の推進

⑥ 家庭学習習慣の定着

⑦ 学校からの情報発信の創意工夫

(3) 教職員にとって

① カリキュラム・マネジメントの推進 → 教科等横断的な視点、学校評価の適正実施、人的物的支援

② 研修と授業改善 → 明確なゴール、指導と評価の一体化、学び合い振り返り、ICT 活用

③ 組織的対応 → 誠実、丁寧、迅速、報告、連絡、相談、記録の徹底

④ 校務、会議等の一層の効率化 → C4th 掲示板の活用、生徒へ向き合う時間確保、タイムマネジメント

⑤ 教育環境整備、適正な予算執行 → 危機管理意識、コスト意識、学校事務の効率化、ペーパーレス化

⑥ サービスの厳正 → 教育公務員、社会人としての深い自覚、生徒・地域の範たる言動

6 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① いじめ対策委員会の充実と不登校生徒への対応強化

ア いじめ対策委員会の会議は、個人情報流出をさけ、タブレット端末を持参してペーパーレスで行う。
資料は事前に把握し、会議では一人ひとりの生徒の共通配慮、共通実践についての確認をする。

イ SC、学校サポーター、SSW、子ども家庭支援センター等と連携し、不登校の未然防止につとめ、連続欠席3日、連続欠席13日、欠席合計30日、欠席合計50日の節目対策を実践する。

ウ 登校支援コーディネーター、特別支援コーディネーター、いじめ対策コーディネーターと協力して、
毎日別室登校の生徒の様子を把握し、民生委員を中心としたボランティアとの連携を図り、新たな不登校生徒の出現を3%以下、不登校生徒数を都の目標値8%以下にする。

② 教職員の人権感覚の向上

ア 人権に配慮し、生徒の呼名はさん付けとする。校内巡回を行い、職員の言動の把握と指導をする。

イ 年間5回の服務事故防止研修では、資料を事前に示し、研修後は各教職員が取り組むことを自己申告書の備考欄に明記させる。

③ 確かな学力の向上と生活指導の徹底

ア 教員の授業観察を年3回以上行い、毎回観察記録をとり、自己申告面接時に授業者と共有する。

イ 学期毎に評価計画を提出させ、授業と評価の一体化について指導・助言を行う。

ウ 年度当初に、授業規律、清掃指導、安全指導についての周知を行い、全教職員で指導にあたる。

エ 授業観察等を活用し、特別支援教室専門員による配慮生徒の早期発見、早期対応、早期解決を目指す。

オ 放課後の補充教室の立案を進路学習部に位置付け、学校運営協議会の協力のもと、全教職員で生徒に個別対応学習を行う仕組みを継続する。

④ GIGA スクール構想の確立

ア タブレット端末による補充学習や家庭学習の取り組みを、1学期中に実現する。

イ 年間を通じて、行事は対面とオンラインの双方の計画案を起案し、ハイブリッド開催で学びを止めず、全生徒が参加できるように配慮する。

ウ 小中一貫教育の全体会や分科会のオンライン化やハイブリッド開催を継続し、9年間を通じて地域と連携することを立案し、教員自らも学びを止めない環境を構築する。

⑤ 働き方改革の推進

ア 事務連絡時間を短縮するため、C4th の閲覧（連絡掲示板と個別連絡の活用）を充実させる。

イ 月2回のノー残業デーを年度当初に周知する。年7回の学校閉庁日は、夏休、振休等にあて、部活動

も実施しないよう指導する。

- ウ 職務に応じた勤務の割り振りを行い、同僚性を養い休憩時間を確保することで、時間外勤務が月 8 0 時間を超える教員の割合が 0 % 4 0 時間を超える教員の割合を 1 学期 5 0 %、2 学期 4 0 %、3 学期 3 0 % となるようにする。

エ

(2) 重点目標と方策

① 地域・保護者への親切的対応と信頼関係の構築

ア ホームページや学校だより、メール配信を定期的に行い、生徒や教職員の取り組みを情報発信する。

② 校内予算の有効活用と生徒との時間確保のためにペーパーレス化促進

ア 生徒との時間を確保するため、会議のペーパーレス化(タブレット端末と必要に応じてスクリーンの共有)を促進し、すべての会議の時間短縮を図ることを継続する。

イ 保護者への配布文書の紙面配布の見直しを年度初めに行い、ホームページ、メール配信する配布物と紙面配布を併用するものを決定し、起案の右側に C4th (電子メール) HP (ホームページ掲載) Pe (紙印刷配布) を記入し、随時実施する。

③ 愛溢れる学校への取り組み

ア 不登校生徒が学校以外の学び舎に登校することを認め、大人との関わりが皆無にならないようにする。いじめ対策委員会での取り組みとして、定期的な個別面談を丁寧に行い、記録を残し、在学中のケアがいつでもできる体制をつくる。欠席合計 5 0 日以上 of 生徒は、必ず校長との個別面談を実施する。

イ 小中一貫教育の取り組みとして、卒業生・入学生の情報交換を 3 学期に丁寧に行う。必要に応じて外部機関とも連携する。

④ 防災フェスタへ向けて

ア 防災教育長期目標「自己実現と成長、つながりと感謝、ウェルビーイング防災横山」を合言葉に防災フェスタへの参加を視野に、各学年ごとに計画を立て実行していく。

イ 小中一貫教育縦割り班を活用した防災教育を、地域と共に推進する。

⑤ その他

ア 不登校生徒用出入口をいつでも生徒が安心して使えるように学びの環境、防災、防犯の防止のために教材室、準備室、倉庫等を日々整頓し、原則届いた教材はすみやかに各教科準備室等への運搬を全教職員が協力して行う。

イ 不登校生徒、特別支援などで合理的な配慮の必要な生徒に対し、全職教員が優しい言葉や態度での対応を心がける。